

次回企画展

文化勲章受章記念 志村ふくみ^{ぼろ}ー母衣への回帰ー

前期展示：2月2日（火）～2月28日（日）
後期展示：3月1日（火）～3月21日（月・祝）



本展覧会では、代表作を中心に、初期の作品から新たに制作された最新作までを一堂に展示し、60年におよぶ志村ふくみの創作の歩みを紹介します。新作のうちの一点は着物ではなく、紬織りによる曼陀羅です。曼陀羅は作家自身、はじめての試みとなりますので、是非会場でご覧ください。また、一つの染料で染め上げた無地の着物からは、自然染料の純粋な美しさを感じられます。露出展示の着物も多くありますので、紬糸の風合いまで存分に楽しんでいただけることでしょう。

さらに、志村ふくみが師事した木漆工芸家の黒田辰秋や陶芸家の富本憲吉らの作品を展示し、民藝の作家たちとのかかわりも紹介します。

(左) 志村ふくみ《馨余》1973年 大分県立美術館蔵 / (右) 志村ふくみ《風露》2000年 個人蔵



イベント情報

※詳細は同封の展覧会チラシをご参照ください

対談^{つむぎ}「紬の着物を着て茶室に入ること」

日時：2月13日（土）午後2時～3時30分

ゲスト：志村ふくみ氏、熊倉功夫氏（静岡文化芸術大学学長）

講演会「母衣（ぼろ）への回帰」

日時：3月6日（日）午後2時～3時30分

講師：志村ふくみ氏（聞き手：志村洋子氏）

キッズプログラム 鑑賞ツアー『これはどんな色？』

日時：2月20日（土）と3月12日（土）、各日午後2時～3時

対象：各回とも小学生10名（事前申込制）※保護者の見学可

*2月2日（火）より申込開始。申込方法は当館HPでご確認ください。

友の会特別解説会

日時：2月10日（水）午後4時45分～6時

集合場所：当館1階ロビー

※当日は開始5分前までにお集まりください。

募集人数：先着20名

解説者：平井啓修（当館研究員）

申し込み先：京都国立近代美術館 総務係

電話：075-761-4114（月曜から金曜まで、午前10時～午後5時）

メール：info@ma7.momak.go.jp

（件名は「友の会特別解説会申し込み」としてください。）

※お申込の際は、お名前・会員番号をお伝えください。

休館中の美術館

1月27日（水）の開館に向け、改修工事が着々と進んでいます。1階エントランスにはタッチパネル式のデジタルサイネージを設置しました。展覧会情報や館内案内をご覧いただけます。3、4階展示室では、展示ケース内の照明をLED照明に切り替えました。より明るく、見やすくなった展示環境にご期待ください。

「志村ふくみ」展をはじめ、これからの展覧会の準備も本格化しております（今後の展覧会については裏面をご覧ください）。

本年も、展覧会、調査研究活動、普及事業など、当館の活動へのご理解・ご支援をよろしくお願いたします。



1階に設置されたデジタルサイネージ

休館中も当館のコレクションをご覧いただけます

★平成27年度 県美プレミアムⅢ「奇想の版画家 谷中安規展」

谷中安規（1897-1946）は、激動の昭和初期に活動した木版画家です。当館の谷中作品より、《大川端（新日本百景33）》（写真右）など計25点を出品しています。



谷中安規《大川端（新日本百景33）》1933年

兵庫県立美術館にて ～3月6日（日）

★生誕百年記念 井上有一



井上有一《作品E》1955年

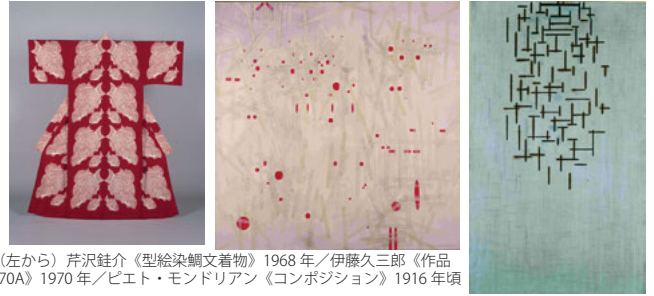
井上有一（1916-1985）は、戦後まもなく世界的に高い評価を得た数少ない日本の現代の書家です。当館の井上有一コレクションから、《作品E》（写真左）をはじめ、計39点を出品しています。

金沢21世紀美術館にて ～3月21日（月・祝）

コレクション・ギャラリー 平成27年度 第5回 コレクション展 1月27日(水)～3月21日(月・祝)

主なテーマ

- ・キュレトリアル・スタディズ 10: 写真の〈原点〉再考—ヘンリー・F・トルボット『自然の鉛筆』から
- ・特集展示: テキスタイルとアート——ボーダレスな可能性
- ・冬の日本画
- ・「用の美」を想う—民藝の作家たち
- ・京都の前衛画家 小牧源太郎と伊藤久三郎



(左から) 芹沢銈介《型絵染鯛文着物》1968年/伊藤久三郎《作品70A》1970年/ピエト・モンドリアン《コンポジション》1916年頃

キュレトリアル・スタディズ 10: 写真の〈原点〉再考—ヘンリー・F・トルボット『自然の鉛筆』から

トルボット著『自然の鉛筆』は、19世紀イギリスで発表された世界最初の写真集であり、写真史の幕開けを告げる存在として知られています。その一方で、原点であるがゆえに、写真のさまざまな物語の可能性を内包しているとも言えるでしょう。本展では、この本から導かれるキーワードにもとづき、当館の所蔵作品から選んだ作品と、「写真とは何か」という問題を根源的に問い続け創作活動を行う写真家・畠山直哉（1958-）の作品を対置。近代以降の写真にまつわる問題を再検証します。



シンポジウム「写真の複数の〈原点〉—複写・複製・写し」

日時：3月5日（土）午後2時～4時

登壇：マイケル・グレイ（元フォックス・トルボット・ミュージアム 館長）
畠山直哉（写真家）、青山勝（本展共同企画者）

進行：佐藤守弘（京都精華大学教授）

会場：当館1階講堂

(左) 畠山直哉《atmos》2003年 作家蔵 Courtesy of Taka Ishii Gallery ©the artist
(右) ヘンリー・F・トルボット『自然の鉛筆』（図版VII 植物の葉）

今後の展覧会スケジュール

オーダーメイド：それぞれの展覧会（仮称） 4月2日（土）～5月22日（日）

「オーダーメイド：それぞれの展覧会」（仮称）は、いつもとは少し違うかたちで当館の所蔵作品を楽しむ体験型の展覧会。会場では各作品にそれぞれ二つのテーマが与えられ、どちらかのテーマを鑑賞者が選ぶことで、順路やストーリーがそれぞれ異なるような仕掛けを試みます。「人生は選択の連続」、観る人それぞれの展覧会をつくるために美術館に入ったときからゲームは始まります。



ポール・スミス展（仮称）

6月4日（土）～7月18日（月・祝）



2013年、ロンドンのデザイン・ミュージアムを皮切りに、ヨーロッパ各地に巡回した展覧会「HELLO, MY NAME IS PAUL SMITH」の最新版。デザイナー、ポール・スミス

のユニークな世界観と多彩なクリエイションの軌跡に迫ります。

キューバの映画ポスター 竹尾ポスターコレクションより

6月1日（水）～7月24日（日）〈4階にて〉



豊かな色合いとマチエールが特徴的なキューバの映画ポスター。本展では、1950年代の革命期から1990年までに製作された85点の映画ポスターによって、知られざる「映画ポスターの楽園」に皆さんを誘います。

日本美術の熱き時代（仮称）

7月29日（金）～9月11日（日）

キュレトリアル・スタディズ 11：七彩に集った作家たち

7月27日（水）～9月19日（火・祝）〈4階にて〉

メアリー・カサット展

9月27日（火）～12月4日（日）

楽歴代展（仮称）

12月17日（土）～2017年2月12日（日）

京都国立近代美術館賛助会員・一般会員
当館は下記、賛助会員の皆様からご支援・ご支持をいただいております。



(写真)

1. マルセル・デュシャン《泉》1917年/1964年 当館蔵
2. 《ポールの頭の中》Image ©Luke Hayes (デザイン・ミュージアムの会場風景)
3. 『ルシア』ラウル・マルティネス、1968年 竹尾ポスターコレクション蔵
4. 『白鯨』アントニオ・フェルナンデス・レボイロ、1968年 東京国立近代美術館フィルムセンター蔵